１５．岡田　芳正氏（日鉄エンジニアリング株式会社　執行役員）

「地方―日本―アジアのハブとして、人―もの―情報がつながる産業のまちを目指す。」

岡田　芳正（おかだ　よしまさ）
1966 年生まれ。1991 年 新日本製鐵（株）入社、エンジニアリング事業本部（東京）で建築設計に従事。1999～2011 年 同社九州支社（博多）、北九州市八幡東田地区の再開発に参画。2011 年～日鉄エンジニアリング（株）（東京）。2021 年 執行役員。
2023 年 4 月～ 同社環境・エネルギーセクターエンジニアリング本部長として北九州市在勤。

「時代に応じて変化してきたまち」

北九州市は、かつての筑豊炭田により石炭産業が栄えたまちで、門司港を起点とした物流・人流の結節点として、わが国の経済発展に貢献してきました。70 年代には公害が問題となりましたが、それを克服以降、エコタウンをはじめ、環境のまちとして発達してきました。

このように、北九州市は、産業の交代をまちづくりや新たな産業の発展のきっかけとしてきた歴史があります。

また、５市合併によって、多様な人、文化、歴史、自然を有する点も北九州市の特徴です。例えば、戸畑の提灯山笠や小倉の祇園太鼓など、それぞれの地域の魅力的な文化が引き継がれている他、門司や若松などの個性的で豊かな自然が残っています。

多様な人々が集い、時代に応じた変化を生み出しながら成長してきたのが北九州というまちであると言えます。

「産業を支える環境が充実」

博多が商業のまちであるとすると、北九州はものづくりのまちであると言えるのではないでしょうか。

製造業のまちとして発展してきた経緯もあり、北九州市は陸海空の物流・人流機能が充実し、産業を支える環境が整備されています。さらには、魅力的な自然、歴史、食文化など、働き住むまちとしてのポテンシャルも有しています。

現在の北九州市は、製造業（素材、自動車、ロボット）や情報産業（コールセンター、データセンター）の集積の他にも、リサイクル産業をはじめとするエコ産業が集積した都市となっています。

製造業のみならず、こうした新たな産業の発展を支える環境が整備されているところが、周辺の都市にはない北九州市の強みであると思います。

「最先端をゆくまちであってほしい」

北九州市のこれまでを振り返ると、産業の生まれ変わりを経験しながら、まちのあり方を変えてきた、進化しながら社会の先端をゆくまちであるというイメージを持っています。

これからも北九州市が最先端をゆくまちであるためには、研究開発機関の充実や、そのような機関から生まれたスタートアップ企業などを育成したり、誘致したりすることが重要であると考えます。

例えば、世界的な潮流を踏まえると、「カーボンニュートラル」は、まちづくりの重要なキーワードの一つになると思います。北九州市ではこれまでも洋上風力発電やごみ廃棄物発電、バイオマス発電など、カーボンニュートラルの取組を進めてきた経緯があります。そうした取組が「最先端のエコタウン」の実現に向けた足掛かりになるのではないでしょうか。

「人―もの―情報がつながる産業のまち」

北九州市は、現在も変わらず関門海峡に面する九州の玄関口であり、九州内の熊本方面・大分方面を結ぶ結節点となっています。

さらには、日韓海底ケーブルにも象徴されるように、アジアとの距離が非常に近い点も北九州市の特徴です。

先に述べたように、北九州市はそれぞれの時代の状況や社会課題に応じて、産業やまちのあり方を変化させてきた歴史があります。

地方―日本―アジアの地理的なハブとして、人―もの―情報の結節点となり、新たな産業を生み出すまちとして、北九州市が発展していくことを期待しています。